四名家筆記

831
20

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

831
20

鏡面ニ佛影ヲ現ス　黒河翁稿本

附小杉君手書冥報記納函背記

十如筆記　輪池翁書

後三年合戦繪集説存疑　喜多村氏

山東庵手書

四名家筆記

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

大正
4. 2. 27
購求

国立国会図書館　　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

大正
4. 2. 27
購求

国立国会図書館　　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

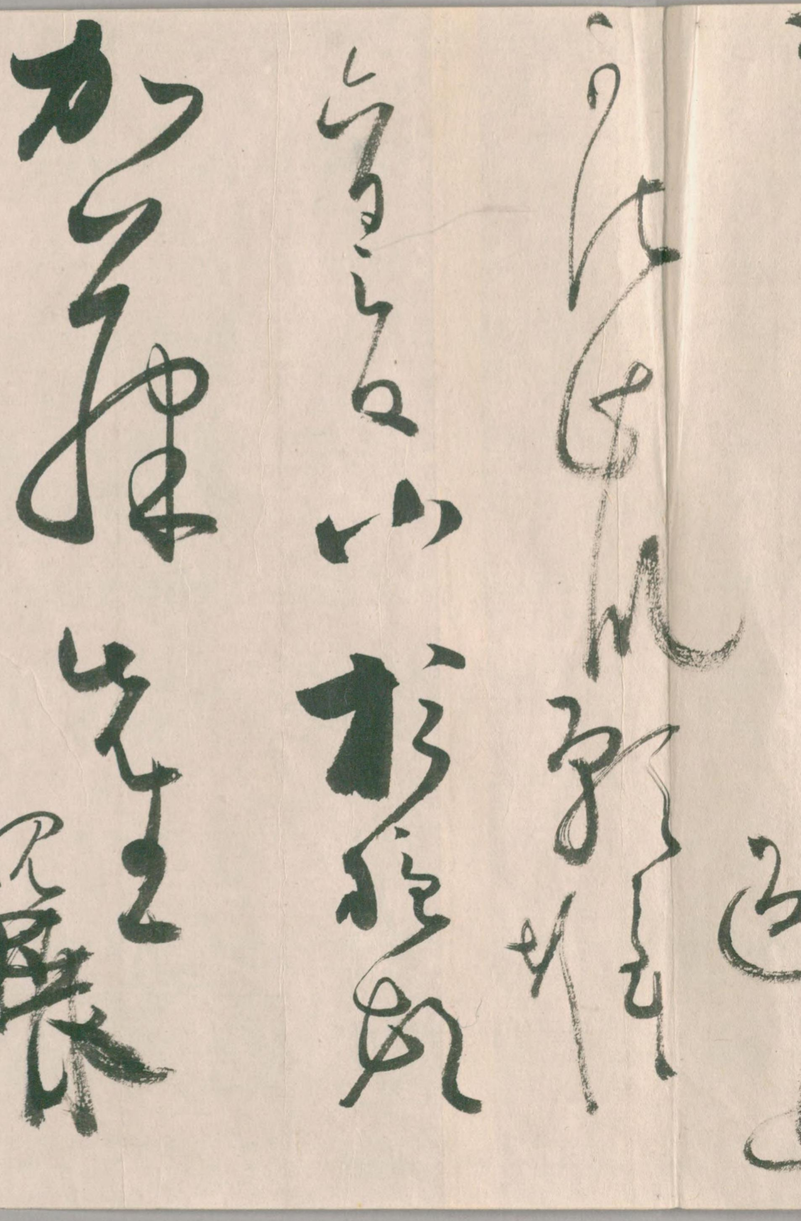
高山寺一切蔵

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

高山寺一所蔵
冥報記　三巻
箱裏ニ
蒼庵書庫庵臨傳方便智院
慧友護園梨自書也

別ニ一紙ヲ貼ス其文ニ
園行阿園梨ノ所令書寫也
以皇朝官紙一張和五年入唐之日
柳庵識



国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

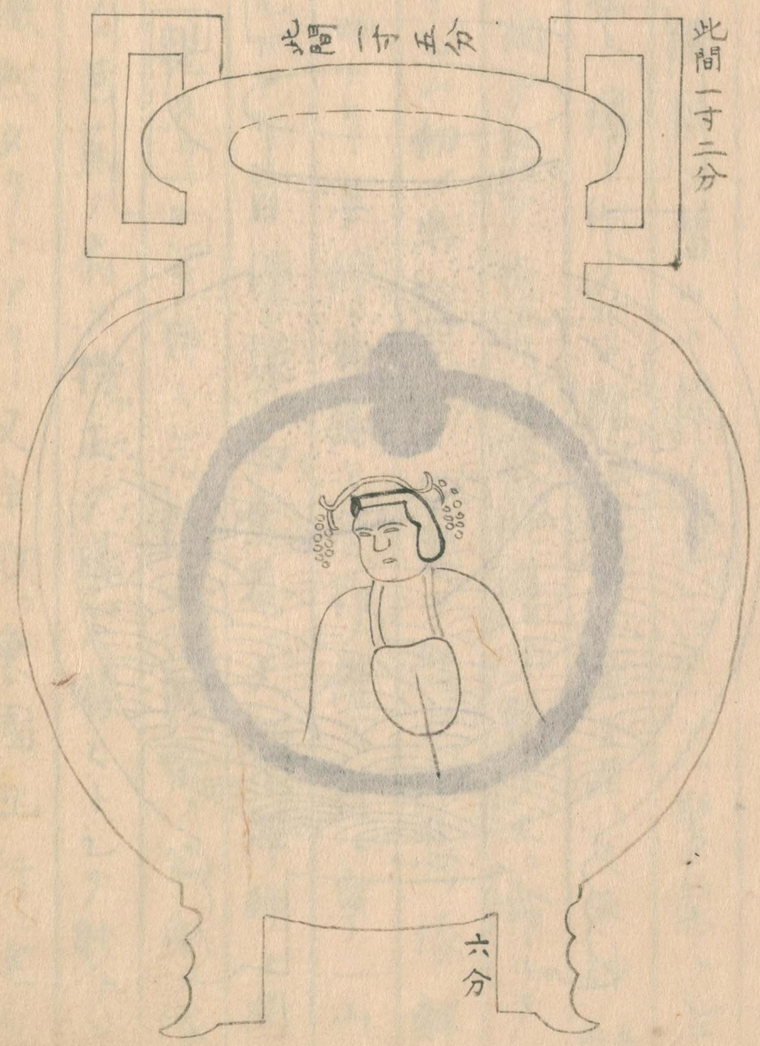
高山寺一所蔵
冥報記　三巻
箱裏に
蒼庵書庫唐臨傳方便智院
碧友護園梨自書也
別に一紙を貼す其文に
園行阿園梨承和五年入唐之日
以皇朝官紙所令書寫也
柳庵識

帝室圖書之寶

鏡面に佛影を現ずる
或人鏡のおもてに圖(假)ず(設)許觀音とおぼしき佛像の
雲中に現じ玉ふを秘蔵して常に持玉ふを見玉ふに
其影(ホノカ)髣髴として横さまに見えてふとおもへば有るがごとく
さればと是ハ藥法あるて燒つくるなるべしあるいハ實ハ
さうでなうあやしむべきものなるも莊内物語とふ
書をそこなふ田川郡(出羽國)田川村矢澤山の麓ニ
八幡の社あり中略　古鏡一面あるを表ニ不動尊ニ
せいそうの像顯ハる毛彫よくすゝ鑄付たるもの也非ず
たゞ繪ごゝろにて似て鏡面をなで試るのみ

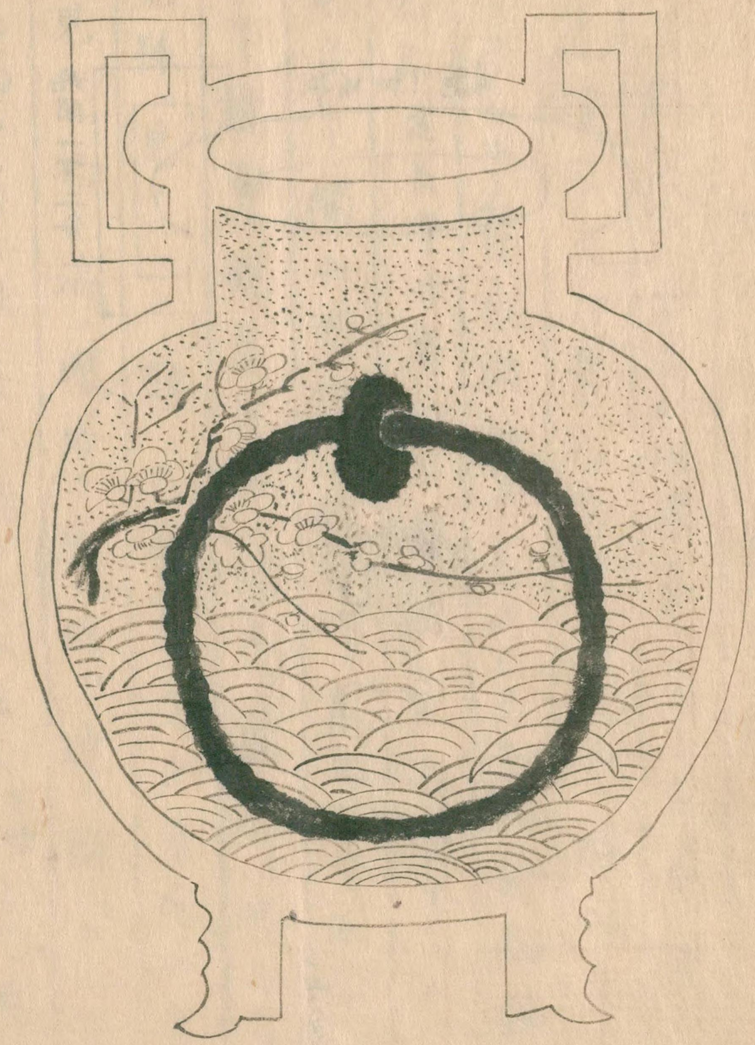
酒竹文庫

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20
ガラス使用



手ざはりすべて繪のごとくなれども
おこして影をうつすがかの像ぞーもさるすべし奇
物なる鏡のうへに常のものの如く鑄物なるも
文以上と云へどもなほ同種のものなるも又新編鎌倉
志巻三建長寺什寶條ニ圓鑑壹面厨子ニ入レ西
来菴ニアリ開山所持ノ鏡ナリ高サ三寸五分横
三寸アリ鏡面ニ観音半身ノ像手ニ團扇ヲ持少シ俯
シタル様ニ見エルナリ頭ニ天冠ヲイタダク首尾如意ノ
如ク見エル物ノ端ニ瓔珞ヲ垂レ珠ヲ連ル絲ハナシ下ニ巾ノ
如クナル物ヲ着ス眼裏ニハ晴ヲ不入云シ下略トテ其圖ヲ
モ載セラル

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20
ガラス使用



かくてえて猶云元亨釋書ニ大覺禪師所持ノ
鏡アリ没後其徒ニシテ牧ム或人夢ニラク其鏡
禪師ノ儀貌ヲ留ムト徒ニ告テ乞見レハ髣髴トシテ
観自在ノ像ニ似タリ諸徒傳ヘ着テ異ヘ之平帥時平
宗コレヲ聞テ府ニ入レ其瞻瞭ヲ疑テ工ニ命シテ
磨治せしム初メ幽隠ナリ一磨ヲ経テ大悲ノ像鮮
明巖好ナリ平帥悔謝シテ作禮ス後ニ寧一山
記作ルトアリ日件録ニ西来菴ニ大覺禪師ノ圓
鑑アリ親タリコレヲ拜スレハ鏡中ニ観音ノ半身ノ像
アリ手ニ芭蕉ノ扇ヲ持ッ正ク視レハ滕ヒトシテ眇カニ
見レハ儼然タリトアリ又京牧カ東國紀行ニ建長

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20
ガラス使用

寺御影堂ノ鏡ノ面クモリ久ルニ十一面ノ尊容サダカニシカ〻セラレタリトカケリ十一面ニハ非ス圖ノ如クナル像ナリ（春村曰此次文ヨ寧一山ト云ヘル禪僧六人ノ記文アルヘキ歟）今醫紹ニ畫寫鏡ニ法雌黃八一錢粉霜（ママ）礪砂各一分右細カニ研テ以膠水ヲ調ヘ任意ニ於鏡上ニ描畫人物草花故事一候ヘ乾火燒片時以磨ヘ鏡藥磨去テ其畫自ラ見トアリ後ニ義堂ノ日工集ヲ見ルニ應安七年十一月廿三日五更ニ圓覺寺失火ス其災ノ起リハ其日寺僧鬻柴者ト價ヲ論シテ鬻柴者ヲ罵辱ム其男潛ニ寺ニ入柴屋ニ火ヲ投テ去ル故ニ焼亡ス其夜建長ノ守嚴首座夢ノ告有ト称シテ圓覺山門ノ閣ニ登リ觀音ノ像ヲ破リ其胸ニ藏ストコロノ寶鏡ヲ取リ建長ノ方丈ニ歸ル諸人競ヒ觀テ希有トス是蓋シ事ノ變ニ因テ倫ヲ奪フ歟上杉刑部大輔憲春来テ圓覺ノ火災ノ問又圓覺ノ靈鏡ノ建長ニ移ル事ヲ聞テ希有ナリ弐ト向フ義堂曰吾家初ヨリ邪法ノ衒フトコロナリ一古人ノ云打破ル心モ非レトスレヲ況ヤ幻藥ヲ以テ鑄ル所ノ世鏡ト是心鏡ヲイフナリ而モ尚ホ打破ス

十如筆記

二ろもの

ろろ一 猶享保十一年五月五日 梶記ゐもこの鎌
倉志の鏡の事尺ろろく畫寫の法ハ古今醫約
第九十八巻 器物類第八ゐろゐといへるもゆとりや
義堂の幻藥を以て鑄ろところの鏡と既くの時
訛譌一ろるハ頗る卓見といふべきところ
因曰安齋隨筆 巻十四廿六丁 同武藏 西ゐ芒 左芒 笠ろる
此鏡の事尺一ろろす 他日考へ加ふべし

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20
ガラス使用

藥師寺增一阿含経奥書

天平寶字二年三月廿七日覆位藥師寺沙門善宇勘本経

覆位元興寺沙門善覚對讀

天平寶字三年十月習散位大初位上三嶋縣主岡麻呂寫

左大舍人少初位上大隅忌寸君子　初校

坤宮舍人少初位上秦忌寸忍国　再校

散位従八位下大綱公廣道　參校

後有用穀紙卅三張

前有内史裝書匠少初位上長江多古志麻呂　裝

藥師寺藏書增一阿含經卷第五十大愛道般涅槃分之卷

天平寶字二年五月十一日覆校藥師寺沙門善珠勘本經

覆校元興寺　沙門　善覺　對讀

天平寶字三年十二月廿六日前春宮舍人女初位下科野里麻呂寫

坤宮舍人女初位上秦忌寸忍国　初校

散位従八位大網公　廣道　再校

左大舍人少初位大陽忌寸　君足　三校

内史裝書近少初位上長沙多古志麻呂　裝

用穀紙十五張

善光　業師有之

佛說阿難四事經　孝謙天皇震翰

奥書　維神護慶雲二年歲在戊申五月十三日景申謹奉爲　先聖敬寫一切經一部二夫之莊嚴畢矣

法師之轉讀畫焉伏願搞山之鳳輅向蓮場而鳴

鑾紆水之龍驂沿香海而留影逆披不測之了義永

證彌高之法身遠暨存正儻同動植同茲景福共沐

禪流或變桑田敢作頌曰

非有能仁誰明正法惟朕卿止給修慧業摧門利廣

子拔苦知力用妙子登岸敢對不居之歲月時每因極

之頌輸

中阿鋡経未曽有法品郁伽長者経
天平寶字元年潤八月廿弐部位字少初位下上毛野君大河勘本経
霞位　興福寺　沙門　行禅　證
天平三年九月廿七日　散位女初
坤宮舎人少初位上秦忌寸忍國初校
左大舎人少初位上大隅忌寸君足再校
散位従八位下大鋼君　廣道参校
装書匠散位少初位上秦忌寸東人　裝

用穀紙廿一張

薬師寺所藏增一阿含才卅写手虫麻呂事考
阿含経筆者虫麻呂續日本紀第十三　安倍朝臣虫麻呂
與大野東人令討藤原廣嗣云者筆者此人歟後人
詳焉　寛延三年初秋日　基節

唐招提寺藏吉備公筆大般若一百七十六巻跋文
夫以般若大乘階斯乃三世諸佛之肝心十地之薩
之實蔵然則皈依者離不消災納福隨順者豈免斯
感證真　伏惟　為孝子坂上忌寸氏成秋穂等

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20
ガラス使用

慈　先考故出羽介從五位下惠四等坂上忌寸
石楯夫之厚恩撫育之慈高踰須弥敗護之
非沢過大海経生累却碎身報命何得報
方欲西母長壽晉於
仲　不為子之至誠展事親之深
尓乃景雀年報運既窮
子誠有闕慈顔先感泉路轉
伏地而雖悲歎郁無
沼領袖雀有佛法必救恩屋

小寶龜十年歲次己未潤五月朔
丈紀卓臣多継等男氏成女
為遠代之法寶也
用奉資　先考之神
海速到極樂之寶
雀早登摩尼之玉殿

唐招提寺寶藏　光明皇后一切経之内有部戒経一巻
光毋六巻経一巻奥書
皇后藤原氏光明子奉為

奪奉贈正一位太政大臣府君尊妣贈從一位橘
氏太夫人敬寫一切經論及律莊嚴既了伏願
憑斯勝因奉資眞助永庇菩提之樹長遊般
若之津又願上奉
聖朝恒延福壽下及寮
采洪盡忠節又光明子自發誓言弘濟沉淪
勤脩煩障妙窮諸法早契菩提乃至傳燈無
窮流布天下聞名持卷獲福消災一切迷方
會歸覺路
天平十二年五月一日

大愛道比丘尼經二卷　東大寺　龍松院所藏
一卷　〃　戒壇院所藏
一卷　南都　海龍王寺所藏
十卷　東大寺　二月堂
一卷　江戸　益齋所持
一卷　大坂　野村氏所持
一卷　京都　錢屋惣四郎
毗婆娑論一卷　拓提寺内　寶生院所藏
神護景雲大般若經五卷（卷三一卷奥書之）
若夫法海洞曠群彼滄波慧日高明等斯靈

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20
ガラス使用

曜受持頂戴福利無遍讀誦書寫勝業難測
是以大法師諱行信平生之日至心發願敬寫法花
一乘之宗金鼓滅罪之文般若心空之教瑜伽
五分之法合二千四百卷経論奉翊
聖朝顧四恩兼救群品遂假躰於浮雲草命
似電光未畢其事令正從化孝子孝仁等不
劫石旋遠退願蔭蒙
勝樹之陽敬辦先願仰坤兎動長遠之壽弟
聖朝金輪之化与乾坤共
菩提之樹位成潅頂力舊降魔廣及法界
有識離苦得楽各登覺道
神護景雲元年九月五日敬奉寫竟
拘伽梵分十六巻 年号與書有之 京都 桐山氏所持
大般若一巻 行信筆 從法隆寺出 寶生院所持
心経一巻 天平勝宝七年 光明皇后 從東大寺出 同院所持
増一阿含経第十巻 林氏所持
右奉為 皇帝陛下 雑天平勝寶 字六年歳次壬寅二月一日願主僧光覺

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20
ガラス使用

僧道真
僧願成
沙弥寿益
優婆塞文善
優婆塞法賢
長尾忌寸国勝
平群朝臣虫名古
後布王公人
優婆塞鳥養

僧況感
僧命花
沙弥隆成
沙弥壽貢
優婆塞文明
檀前村主家刀自
狛虫名古
資村廣足
姓布主虫名

法隆寺一切経

京都

印

林氏所持

摘大衆論第五

維天平寶字六年歳次壬寅四月八日願主僧光覺

記臣万自古

京都

林氏所持

戒目縁経第二

維天平寶字六年歳次壬寅四月八日願主僧光覺

舟比廣古

林氏所持

大衆莊嚴経論巻第一

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

延暦七年五月廿日奉願主栗野寺
檀越沙弥定恵
後鏡奉持僧定来
伊福部連福人僧勤群
經師僧信慤徹
無量義經一卷光明皇后天平勝寶 藥師寺寶藏
法華經八卷同筆 同寺
觀普賢經一卷同筆 同寺
大般若經六百卷 魚養 同寺寶藏

成唯識論十卷 三帝御震筆大安寺
第一秦 後岳峨院 第二龜山院 第三淡海院
第四秦 大宮女院 才五院
才七秦 内裏 才八大宮女院
第十卷 新院 才九院
御書寫御目錄 圓光院前関白太政大臣基忠公 鷹司殿二代用

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

後三年合戦絵集説

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

節信案ニ流布ノ卯本後三年記ニ玄慧ノ序アリ故ニ共ニ同時ノ人ナリトスルニ非ス序ニ奥書ヲ其時作ルガ如シ

ヒトリ行忠卿ノ年代ニ云ヲ玄ノ鑿ニテ仲直保脩等ノ人ニ云ハルハイカニ惟久カ時代ヲ推ニ相違アルヘシ宜ナリ

後三年合戦繪集說

松平勝當侯尾州御家族仕弾正大弼叙従四位ヲ将曰公卿補任ヲ案スルニ右衛門督源行忠延文三年十月十四日叙従三位康安元年六月六日叙正三位貞治癸卯南朝正平十八年十月朔日叙従二位同五年十二月廿日任参議應安二年十二月十二日叙正二位百代後円融院永徳元年薨ヲツラネ後三年軍記ノ書ハ九十九代後光厳院延文三年ヨリ同御代康安元年夏迄ノ間ヲ書ヲ物ヲ見ルニ且補任延文五年庚子ヨリ行忠四十九ト記ヲ因テ推テ生年ヲ数ヘツレハ元和元年ヨリ生テ永徳元年七十歳也右ノ如クニシテ貞和三年ヨリ延文三ヲ十二年ヲ経リ玄慧惟久皆同時ノ人ナリ玄慧明ラカナラス然ラハ天

喜多村

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

八幡太郎繪詞ト云名目モアルニヤ

前ノ軍ノ在ラヲ我モ〳〵ト然モ此奏物古ヲ立ル奏ノ
云ヲ〳〵ナレハ今ハ左ノ三奏ヲ残セリ
屋代弘賢曰八幡太郎繪詞ノ画工飛弾守惟久ヲ時代モ姓氏
詳ナラス云〳〵其詞書ヲ人ノ上奏ハ仲
直朝臣中奏ヲ左少将保脩下奏ハ後三位行忠卿
ヲ題セシ所ナリ（コノ名皆当時ノ名ヲ載シ也）按スルニ
三位日六年六月六日叙正三位ト云ヲ此繪詞ヲ延久三年
十月以後六年六月前ノ書ト云ヒ
芝巌院ノ御宇ト人名ヲ挙ルヲ以テ考ルニ
ヲ十八世ノ孫ノ宗久ト云ヘリ飛弾守式部丞従五位下院北面院

不審ノ書画筆者有ノ年ニ相違セリ又ノ序ハ後人ノ所為ニテ名ヲ玄慧ニ比シレタルモノナルベシ其文ノ拙キニテモ玄慧ニ非ザルヲ知ベシ
信景ガ説ハ塩尻ニ云ヘルヘシ余カ見シ本ニハ此説ナシ信景ハ系図ナドニハ委キ人ト見エタルヲコハ余リニ杜撰ナルヘシ

節信曰其齊随筆洗革ニ此記ヲ引タルノミニテ此画巻即其時物ト云文ナシ且古記ノ文ニハ三字考アリ不画画字送ルヘシト云リシカラサル遍シガタシ

按ニ詞書ノ人ヲノミ画者モ同時ト見ルハ非ナリ今ノ奏物実朝公ノ時物ハ云ガタシ補任ヲモ検セズシテカルヲ云ベクモ非レハコハ画ハ古キ物ニテ詞ハ後古ヲ模シ新ニ書ヒタルヲアリトスルノ意欤

按東鑑読申之ヨハナシ読申其ハ詞トアリ

野信景永徳ヲ延徳ト云ヲ誤レリ応仁文明ノ画ト云ヒ
杜撰ナリ康安元年六月六日叙正三位去ル年書進云ヒ
伊勢貞丈説曰吉記権中納言位房卿記承安四年三月十七日甲辰條曰
拾遺来臨為見申繪ヲ呼招引也件繪ハ義家朝臣為陸奥守之
時与彼國住人武衡家衡等合戦繪也件事雖傳言無不記又
不画静賢法印先年奉院宣始令書也彼法印借出御倉
道之為消従然歟云〳〵按ルニ東鑑ニ云承元四年十月廿三日丁未
奥州十二年合戦繪自京都被召下之今日御覧仲業依仰讀
申之云〳〵是鎌倉實朝公ノ代ノ事ニ此画奏物ハ即其時ノ物ナリ
後三年記ヲ読ルニ武衡ハ國ヲ追ラレ〳〵テ〳〵ト云事

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20
ガラス使用

此說甚ヨシ

藏人と注セリ又有茂ときく後伏見院の上北面也後伏見院より仕へ奉りし者の子孫ニ代時代もちかく今あるやうに人皆峨清涼寺の夢芳羅筏書しに有久とあり此宗久の叔父と云ふより即有茂の弟むく左近將監従五位下采女正壹岐守従五位上繪所長者と注きり

住吉慶舟曰後三年繪東鑑ニ後三年軍記ニ曰ふところなり付世ニ傳るところいん飛弾守惟久と八十九代亀山院文永の比の人まく也時村平相模守殿と有しハ惟久ほとの詞書ニ出たる時代より出たれ実朝公代後三年ニ事の委ニハ不詳いかゞ

本多忠憲曰後三年合戦の繪詞乃説ニ右ニ記しあつたる如

イニ又明白ナラズ

玄慧序ノ事ハ既ニ上論ス

既ニ承元ノ事ヲ再ビ擧ケ重ネテ古事ヲ述ルハ其ノ古事ノ寫ニ誤アルヲ知ルベシトカヽハシ

ときく明ら好き前文東鑑承元四年十二月廿三日条ニ奥州十年合戦繪自京都被召之と記録ニ此事を負和三年ニ事ニ作ル奥ニ後三年記の一本の奥ニ玄慧法印の序あり其ニ此事ハ南谷の衆儀ニ出たる由ニ見えたり玄慧法印の序ニ此事ハ南谷の衆儀ニ出たる由ニ見えたり其功を終るとあるハ此事ハ南谷の衆儀ニ出たる由ニ見えたり其和三年ニ事ニ拠ニ出たるニ付ニ玄慧法印の古事を再ビ負序ニ出たるニ付ニ玄慧法印の古事を再ビ負序ニ出たるニ付ニ玄慧法印の古事を再ビ負序

是霜ニ文ハスレテハ解シカタシ千年ノ経ルトイヘドモ存スル物ヲヤ

惟久カ画巻物誰カコレヲ疑フモノアラン此画巻物有ハコノ惟久トイフ画工モ有シテヲラン知レ

光信カ画ケル後三年合戦ノ画ハ聞モ及ハヌコトナリ跡カタモナキ毎言ニコソ

侍ケル本ノ文ノマヽ先祖ヨリ東艦ト記ス奥ノ十二年合戦ノ絵ヲモ手ニ入ラレヨカシト思ヒヨリ人ニ頼ミ写サセテ今ニ失ハヌ事ノ嬉シサヨ嗚呼歎ヘキハ此ノ絵ノ作者ノ名ヲ後ノ人ノ知ラサル事ナリ三年合戦ノ絵ヲ因幡ノ国ノ住人ト云ヘルハ誤リナリ惟久ハ飛弾守惟久ノ子ニテ佐刑部ト云光信ヲ父ニ持ケルヲ因幡ノ国ノ住人トスルハ誤リヤスキ人ノ心ナリ又光信ヲ百四代後鳥羽院御代明応ノ比ノ人トスルハ延文ノ年間ノ人ナリ又光信ヲ百四代後鳥羽院御代ノ人トスルハ是又誤リニテ百ヨリ四五十年今ヲサルヘキ後ノ世ノ人ナリ先祖ノ事ヲ子孫ノ知ラサル事ヲ嘆キ延文ノ比惟久ノ子法光信ノ子孫ノ

芝ノ存ヲルヨリモ久シキノ説ヲ聞モ及ヌ事ナリ

右集説ハ友人北峯主人ヨリ借リ写ス所ナリ其説不審ノ処ハ少シ頭上ニ愚見ヲ記シテ猶他ノ発明ヲ俟　節信

○又高橋岡南老人右ノ画巻物模写ノ跋ニ書ヲ繋ル流勘文ノ筆者アリ左ニ記ス

仲直　仲朝（宇多源氏時方後裔戦国時代上杉家ニ仕ヘ対馬守従五位下）　仲直（上杉家文教寄人治部大輔細工所別当従四位上）　清直ニ〻

保倫　保有（道長公勇輔宗後持明院左中将正四位下早世）　保倫（左中将正四位下）　保定（能書後四位下右将監）

惟久（手考但高階氏）　重氏　師氏　頼基　行尹（伊尹公後延慶三年当家）　行忠（参議従二位）

惟久　左ニ門　師重　師直（高武蔵守惟基）

重久　左ニ門

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用

節信攻ル三東鑑ニ實朝公奥州合戦繪ヲ得ラレシ承元四年ヨリ六年前元久元年十月廿六日條ニ將軍家日来御重工於京都被図將門合戦繪今日到来御覧入道所調進也三十箇巻納時繪櫃珠御自愛トアルヲ見レハ十二年合戦繪モ其時ノ新造ニテ奏數モ多カリケムコト吉記ニ見エタル御物ニアラスヲハ其文ヲ見テモ知ラレシ東鑑承元四年ノ文ハ右ノ御物ノ早ク安元壽永ノ間災火兵乱ノ為ニ失メルニヤト思ハルヽヨシ若ハ實朝公新造ノ十二年合戦繪ノ後三年ノ方ハ彼御物ノ寫本ナト傳リテソレニ由テ重ケルモ知ヘカラス吉記ニ見エタルノ所謂後三年合戦ハカリニテ前九年合戦図モ前九年ハ近ノ後三年ノミ存セシヲ惟久再ヒ寫傳ヘタレハ今現存セルハ半ニ過スト思ハル又按ルニ吉記ニ見エタルト東鑑ニ見エタルトハ絶テ別本ニテ今傳ル所惟久カ繪ハ何レニ拠テ寫シタルヤ詞ノ書手猶古キ人有ラシヲ知カタシサレハ惟久カ七ツルモノハ正ク造物者ノ意ニテ其ハ實ハ知リカタシ又惟久カ功サニテ賞スルニヨスラスルモノナレハ今其繪ノサニテハ古圖ニ勝リタル工夫モ有ヘシ尤希世ノ珍書ナリ又詞ノ發端ノ所存スル中ホド缺タル故其事疑シキコトアリ發端ニ家衡吉彦ノ秀武カ一味セル後ニ秀武カ將軍ノ御方ヨリ又真衡カ其合戦發起ノ首タルモノナルカ後イカニナレルカ又重衡モ初ノ処今ノ上表ニ錯乱アリト見エ家衡武衡沼ノ柵ヲ捨テ金澤ニ移次ニ城下合戦アリシ國司武衡相加リ聞ユルヲ甚シク決テ將軍國府ヲ出テ城下合戦ノ後ニアルモ非ナルヘシ今ハ記憶シツルノミヲ挙ツ猶ヨノ合セ考フヘシ

文政六年未三月朔　節信再識

今昔物語合考ヘシ

惟久ハ何レノ時ノ人トタレカナル朋文ハナケレ共住吉家ノ説ノ如ク龜崗御世文御ノ比ノ事ナルヘシノ会ノ上表ノ詞カケル仲直ノ時代ヲ推テ知ラル然ラハ繪ハ先ツ出来テ詞ハ後ノ能書ヲ撰ミ清書セシメシ者ナラン又タ今ハ残巻ニテ猶多クナラスモシ全ク存シタラシカハ詞ノ書手猶古キ人有ラシヲ知カタシサレハ惟久カ本ヲ見サレハ惠ハ古ク書ハ其後トスヘキ者ナキヲイカニセン且ノ真本ヲ見ヘカタシ

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

831
20

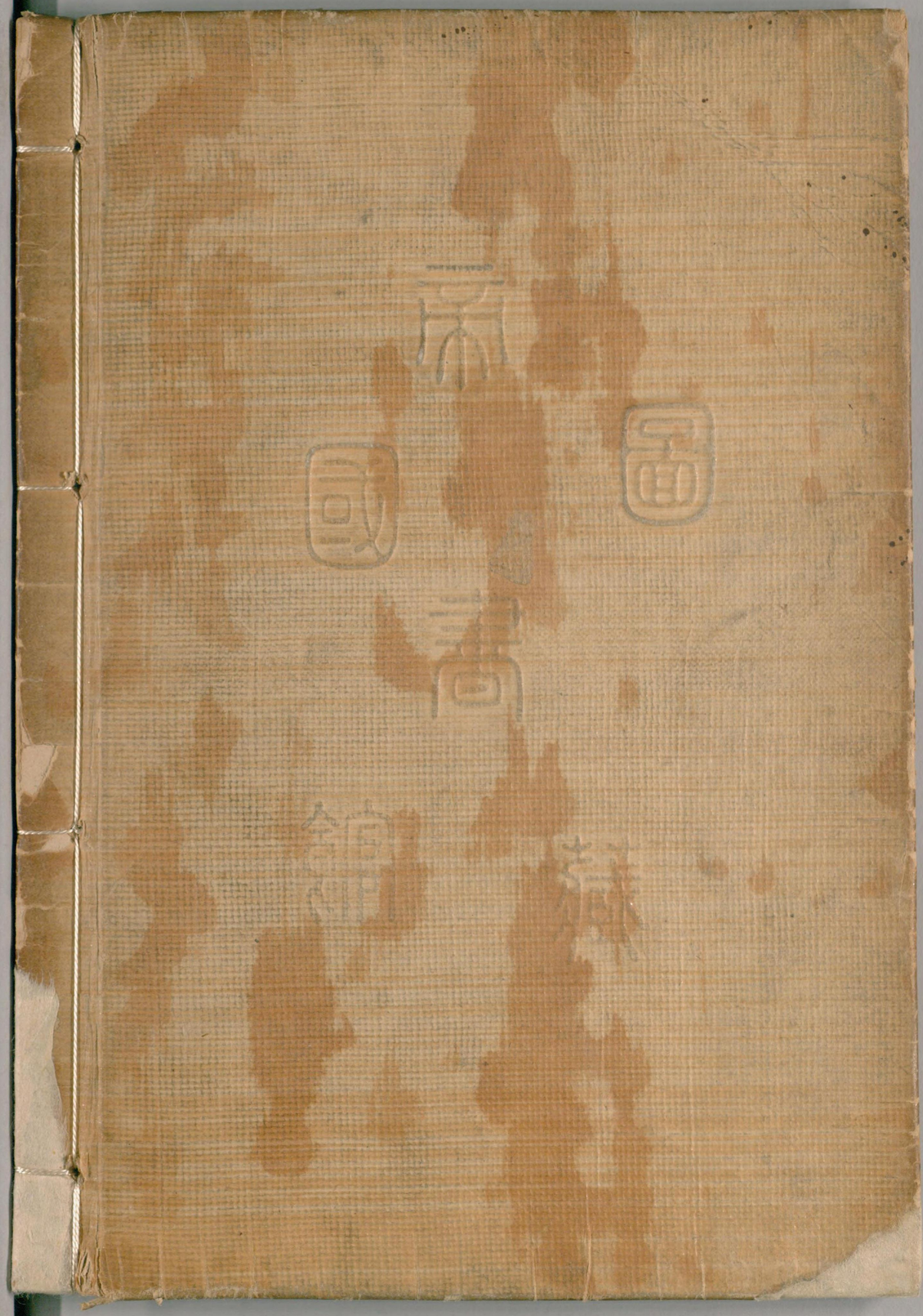
国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用

831
20

国立国会図書館　タイトル『四名家筆記』 請求記号 831-20

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『四名家筆記』　請求記号 831-20

ガラス使用